

小学六年

適性検査A

解答と解説

問一

互
い
の
コ
ミ
ユ
ニ
ケ
ー
シ
ヨ
ン
を
深
め
る
チ
ヤ
ン
ス

20

問二

と	反	手	ど
も	応	を	う
さ	す	困	答
け	れ	ら	え
た	ば	せ	れ
い	い	た	ば
と	い	く	よ
考	か	な	い
え	わ	い	か
て	か	し	わ
い	ら	、	か
た	ず	質	ら
可	自	問	な
能	分	へ	い
性	が	の	質
。	恥	答	問
	を	え	を
	か	に	し
	く	ど	て
	こ	う	相

80 60 40 20

【例】

と	極	い	夕	と	を	必	
す	的	な	ビ	述	鍛	要	会
る	に	が	ユ	べ	え	な	話
姿	ぶ	ら	ー	ら	て	こ	に
勢	つ	も	と	れ	相	と	お
が	け	ど	い	て	手	に	い
大	て	う	う	い	と	つ	て
切	相	答	非	る	の	い	相
だ	手	え	日	。	関	て	手
と	の	る	常	ま	係	、	の
述	新	か	の	た	性	文	言
べ	し	わ	設	、	を	章	業
ら	い	か	定	文	作	A	を
れ	面	ら	で	章	る	で	深
て	を	な	、	B	こ	は	く
い	発	い	相	で	と	知	聞
る	見	問	手	は	が	性	く
。	し	い	を	、	必	と	た
	よ	を	気	イ	要	感	め
	う	積	遣	ン	だ	情	に

100 20

問三													
り	お	分	理	が	ぎ		る	自	る	お	知	を	
た	た	に	解	考	ま	そ	相	分	こ	た	性	す	自
い	が	と	さ	え	な	れ	手	の	と	が	と	る	分
と	い	っ	れ	て	思	ぞ	の	気	が	い	感	た	に
私	に	て	た	い	い	れ	こ	持	重	に	情	め	と
は	心	大	り	る	を	の	と	ち	要	安	を	に	っ
思	を	事	す	こ	か	人	も	や	だ	心	鍛	、	て
う	開	な	る	と	か	が	十	考	と	で	え	文	大
。	い	相	も	が	え	こ	分	え	私	き	て	章	事
	て	手	の	簡	て	と	に	を	は	る	相	A	な
	会	の	で	単	い	な	意	伝	思	状	手	の	相
	話	こ	は	に	る	る	識	え	う	態	と	筆	手
	が	と	な	他	の	経	し	る	。	に	の	者	と
	で	を	い	者	だ	験	た	際	そ	し	関	が	心
	き	理	。	に	か	を	い	に	の	て	係	言	を
	る	解	そ	伝	ら	し	。	は	た	か	性	う	満
	よ	し	れ	わ	、	て		、	め	ら	を	よ	た
	う	た	で	っ	あ	、		受	に	話	作	う	す
	に	い	も	た	る	さ		け	は	を	り	に	会
	な	し、	自	り	人	ま		取	、	す	、	、	話
440	400						300					200	

(配点)
 { 問一 15点
 問二 35点
 問三 50点 } 計100点

は「どう答えるかわからない問い」によって相手がどのような反応をする可能性があるかを考えることで自分の意見をまとめることができます。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。第二段落の内容ときちんとつながりがあるかどうか、書いた後に全体を読み直すことで確認できます。また、いきなり書き始めるのではなく、一度どのような方向性で書くのかをメモしておく、まとめやすくなります。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

① **文章A**と**文章B**それぞれに書かれた、話を深く聞きたいときにどのようなことが必要か、ということについて、それぞれの筆者の考えが書かれているか

② ①の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第二段落について

③ 第一段落でまとめた**文章A**と**文章B**のいずれかの筆者の考えをふまえて、自分にとって大事な相手と心を満たす会話をするために必要なことについて自分の考えが書かれているか

④ ③の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第三段落について

⑤ 第二段落に書いたことについての理由が書かれているか
⑥ ⑤の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

全体について

⑦ 段落が問題の指示に従って分けられているか

⑧ 答案用紙の使い方が正しいか

⑨ 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか

⑩ 字数制限が守られているか

【解説】

問一 B1 情報を獲得する 具体化 関係づけ

文章Aの「相手の話を聞いてみる」は、相手との関係性の中でどういうことを思っているのかを自分なりに尋ねてみることを指しています。これと同じように、文章Bでは、インタビュという非日常の設定を用意し、相手に本音を話してもらおうという方法が紹介されています。そのメリットとして、第十一段落に「それはもしかしたら、互いのコミュニケーションを深めるチャンスになるかもしれません」という筆者の推測が書かれています。

問二 B1 具体化 関係づけ 理由

設問の条件から、「筆者（が）」「女性アナウンサー」の心理について「推測してい（る）」部分を文章Bの中で探しながら読むことが必要だとわかります。また、「文章B全体をふまえ」という条件がつけられていることから、関係がある部分を一つ見つけておしまいにするのではなく、他にも当てはまる場所がないか注意深く探していきましょう。傍線部直後に「相手を困らせたくない」という心情を推測している部分があり、本文最後から二つ目の段落には「自分が困りたくない」という心情を推測している部分が見つかります。これらを盛りこんでまとめましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「相手を困らせたくない」という心情と「相手の反応に対して自分も困りたくない」という心情にそれぞれ触れているか

- ② ①の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがな

- ③ 表記や表現が正しいか

問三 C2 理由 置き換え 推論

文章Aと文章Bに書かれたことを確認して、自分にとって大事な相手と心を満たす会話をする際にどのようなことが必要か、という課題についてあなたの考えを述べる問題です。

第一段落では、文章Aと文章Bそれぞれに書かれた、会話において相手の話を深く聞くためにどのようなことが必要かについてまとめます。文章Aの後半には「結局のところ、わからな

いときでも、相手との関係性に踏みとどまるということですよ」と書かれています。この部分を利用してまとめるとよいでしょう。また、文章Bの後半には「どう答えるかわからない問いこそ、相手の新しい面を発見できるかもしれない。そうすれば、相手ともっと仲良くなれることだってあるかもしれないのです」と書かれています。この部分を利用してまとめるとよいでしょう。

第二段落では、文章Aと文章Bのいずれかの筆者の考えをふまえて、あなたの考えを書きます。たとえば、「相手との関係性」を大切にすべきだという文章Aの筆者の意見に同意できるところがあれば、どのようにして関係性を作ればよいかという観点で自分の意見をまとめることができます。また、相手への気遣いをしつつ、新しい世界に踏みこむチャンスをつかむために「どう答えるかわからない問い」をぶつけることで可能性がひらけるはずだ、という文章Bの筆者の意見に同意できる場所があれば、具体的にどのような気遣いをすべきか、また